

相談ネットワーク通信

No. 71

2011.11.15 (火)

子育て教育なんでも相談ネットワーク 岡山市北區表町1-4-64上之町ビル3F Tel.Fax.086-226-0110

「待つ・添う・仕掛ける」日々を

林野 高校 沼本 典子

ように気がついてきて、自分の職場や生徒たちへの愛着が戻ってききました。教員評価やパ

いつも「相談ネットワーク通信」を送って下さっておりかとうございます。多忙化しつつある高校現場に働いている者として、「ああ、そうだよなー」と教育の原点を思い出させていたできています。ドイツでパン作りの修行をしていらつしやる若者の、自分が作っておられるパンというもののへの愛情と情熱に溢れた連載記事(ドイツ事情も伝わってきておもしろいです)や、小学校教師として働いてこられて講師として小学校現場に戻っていかれた女性を感じられたことを書かれた記事など、とても心に残りました。

私も教育相談に関わりながらずっと県南の高校で働いていましたが、夫や自分の老親の世話が必要となり、昨年県北の夫の奥家に戻り、家から近い高校に転勤いたしました。55歳を過ぎての転勤は心身にこたえ、県南とは違った県北の教育風土にとまどったりもして、最初の方は「働き続けていけるだろうか？」と自信を失いかけてたりしました。でも一年半が過ぎ、「どこに行っても変わらぬ高校生」の姿が段々見えきたり、過疎化・高校統廃合の中だからこそ益々大切になってきている「地域の中の学校」というもののあり

ソコン教育が導入され、職場が多忙化し、目の前の生徒たちや教員同士のコミュニケーションがどれなくなってきたりしている状況です。だからこそベテランの一員としてどっしりと構えて、「時代を超えても変わらぬ教育の原点」を忘れず、目の前の生徒たちに向かい合い、お互いに与えたり与えられたりしながら三年間彼らに伴走して、いっしょに成長していきたいと思っています。

「待つ・添う・仕掛ける」の8文字が、この10年自分が大切に

(4面につづく)

RSK
山陽放送ラジオ

おがやま朝まるステーション

難波一夫さん出演

2010年11月25日(木)、26日(金) ④

(2日目の1)



—おはようございます。お目覚めいかがでしょうか。お変わりなければ何よりです。11月26日金曜日「おがやま朝まるステーション」、お相手の滝沢忠孝です。そして、今朝もスタジオには「子育て・教育なんでも相談ネットワーク」代表世話人の難波一夫さんです。

おはようございます。

難波 おはようございます。

—はい。難波さん、

早速今朝もみなさんからメール・ファックス届いております。

「難波先生の教え子の数は、想像できない多さでしょう」

難波 想像できませんねえ。

—そして、「難波先生のお声を聞くと、懐かしい小学校の先生が脳裏に浮かんできます。ところで、先生は現役時代に生徒に体罰はされたのでしょうか。暴力を振るう子どもたちを諭すときには、どのような言葉をお話になつたんでしょう」

難波 暴力を振るったことは、絶対にありません。子どもと向かい合いながら、子どもの目を見ながら、心の中では、「愛して・信じて・待って」と言いつづけてましたね。思いつづけてましたね。「愛して・信じて・待って」。

お前を本当に心から「信じて・愛して」いるんだと、だから、こういう言葉を言うんだ。叱るんだ。こいうことだけは言いましたね。最後は、やっぱりいっぺんに変わるもんじゃありませんから、「待って」やらないと、この「待つ」のが大変なんです。ねえ。

—「難波先生のお声は、以前から朝まるのラジオで聞いていました。まさか81歳とは知りませんでした」…よければ、お話を聞かせていただけますか。

難波 いえいえ。

—「岡山空襲のお話、バカ母ちゃんの話、もう泣いてしまいました。思い出すと、また泣けてしまいます。妻や子どもを大事にしなれば、あらためて思いました。明日は、どんないいお話が聞けるんでしょうか。46歳の男性です。」

難波 ありがとうございます。さいます。

—きのうも、目的地に到着してもなかなか車から降りられないという方が多くって、先生のお話を一区切りつくまでは聞かないとねえ。

難波 うれしいですねえ。

—なかには、涙…きのう私もなにかウルウルしてしまいました

けれども、今日もまた、すてきなお話、子どもたちの心がいつぱいつまったファイルをお持ちです。すいぶん重たいでしょうね。

難波 重たいです。

重たいけれど、これが私の宝物ですから、どこへ行くのにも、これを提げて、そしていっぱい引出しがありますから、その引出しの中から、何十年の歴史と宝物ですから、大事にしてあります。

—その大事な先生の宝物の中から、今朝もいくつかが披露いただこうと思います。

みなさんからのメール・ファックスでのご参加もお待ちしています。岡山0800-223-0310。usa@3-c.com

不com.jpでお待ちしています。今日は難波一夫先生とご一緒です。

CM 7時の時報 ニュース

(ニュースの中のひとつ)

宮城県石巻市で2人を殺害し、1人に大怪我をさせたとして、殺人などの罪に問われた少年の裁判で、仙台地裁は昨日、裁判員裁判では初めて少年の被告に死刑判決を言い渡しました。

この裁判は、今年2月石巻市で交際相手だった少女の家に押し入り、少女の姉で当時20歳の南部みささんと、友人で当時18歳の太森みかさんの2人を刃物で刺して殺害したほか、男性1人に大怪我

をさせたとして、事件当時18歳の元解体工の少年が殺人などの罪に問われたもので、裁判で少年は3人の殺傷を認め、検察側は死刑を求刑していました。

判決で、仙台地裁の鈴木信行裁判長は、「遺族の感情などを踏まえた上で、事件当時18歳だったことは死刑を回避する理由にならず、少年が立ち直る可能性は著しく低いと言わざるをえない」と指摘して、裁判員裁判では初めて少年の被告に死刑を言い渡しました。

少年の弁護士により

まず、「少年は判決を受入れたいと話している」ということですが、弁護士は少年に控

訴を促す方針です。一方、裁判員を務めた男性は記者会見で、死刑判決の言い渡しについて「怖かった。一生悩みつづけると思いました」と心境を語りました。

CM

—さて、難波さん、「事件当時18歳だったことは、死刑を回避する理由にはならない。少年が立ち直る可能性は著しく低いと言わざるをえない」という指摘で、列刑が判決で言い渡されたという仙台地裁のこのできごと、どのようにご覧になっておいででしょうか。

難波 私は、立ち直る可能性というものを、捨ててはいけな

と思うんですねえ。あの、萩原朔太郎の詩かなんかに、飛び降りることを考えた子どもが、屋上から飛び降りて、そして、その飛び降りている最中に「シマッター」。もう一回生きようと思ってももう遅いと。つまりそれは、死につながらわけですから、もう一度立ち直る可能性というものを、あくまでも信じてやる、そのことが一番大事なことじゃないかなあーと思うんですね。

なぜぞう思うかといえますと、静岡県の子どもの「ぼくの一言」というのを書いたものがあるん

(4面に続く)

(3面をつづき)

です。それを見てみると、「裁判官さんへ。『お母さん子どもがこうなってしまうのは、親のあなたの責任です。わかっているんですか。ほんとうのお母さんですか。』審判のときあなたの言った言葉です。裁判官、少しは母の気持ち、ぼくの気持ちを考えてものを言ってください。『こういふのもあるんですよ。ねえ。』で、お母さんは、『お前なんか鑑別所へでも、少年院へでも入らないとわからないんだ。口ではぎつぐつ言っていたけど、ぼくが警察に連れて行かれるときのお母ちゃんの涙は、一生

忘れません。こんな家になんてぼくを生んだんだよ。ほんとうにっらいことを言っていてめんなさい。今はこの家族に囲まれて幸せをみしめていきます。こんなことの言える可能性をすべて否定される。それが死刑だと思っんです。私には、立ち直りのために、何十年、何百年かかっても、終身刑でこの子の立ち直りを考えてやるのが一番大事なことではないか。被害者にいつても、このことを考えて、人間の可能性というか、未来を信じてやること、子育てのなかでも大事にしてほしいと思います。ねえ。

(つづき)

(1面をつづき)

ていることです。生徒自身が持つ成長力を信じて待ち(見守り)、サポートが必要な時にはその子どもに合わせた色々な形でより添い、大人や教員として、「今、ここ」と思ったときには力強く仕掛けて、向かい合っていてくれるような教員でありたいと思っっています。そのためには、毎日、授業やHRや廊下や職員室や、掃除場所のトイレや、部活や色々な場で一人ひとりの子をよく見て、さりげない言葉をかけたことが大切だと思っっています。

「相談ネットワーク」

会員・賛助会員のみなさんへ

いつも相談ネットワークの活動を支えたいありがとうございます。

心からお礼を申します。

会費の納入がまだの方は、同封の振替用紙をお願いします。(すでに納入済みの方はごめんなさい)

個人会費 一口 2,000円以上

賛助会費 一口 5,000円以上

口座番号 01200-9-10898

加入者名 相談ネットワーク

「通信」は、多岐な生活に追われてつい視野が目先のことに狭まってしまうような時に、ふっと視野を広げて、大切なことを思い出させてくれるものとなっています。どうぞこれからも、教育と教育相談の灯をともし続けていって下さい。

気候の変わり目ですが皆様方の御健勝をお祈りいたします。

(ぬもとのりこ)

相談状況

2010年7月1日～2011年6月30日

相談ネットワーク

2010年度	高校	中学	小学	成年	未成年	乳幼児	その他	面接	合計	%
不登校・登校拒否	9	7	5	4	2	0	0	3	30	12.1%
問題行動	2	5	6	1	0	0	0	2	16	6.5%
いじめ	3	5	1	1	2	0	0	0	12	4.8%
しつけ・勉強	4	3	11	4	0	2	0	1	25	10.1%
学校への不満	0	2	1	0	0	0	0	0	3	1.2%
進路	3	6	0	6	0	0	0	2	17	6.9%
保育問題	0	0	0	5	0	6	0	0	11	4.4%
人生問題	0	0	0	90	0	0	0	16	106	42.7%
情報提供	0	0	6	21	0	0	0	0	27	10.9%
その他	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.4%
計	21	28	30	133	4	8	0	24	248	100.0%

相談日 187日 相談件数 248件 平均 1.33件/日

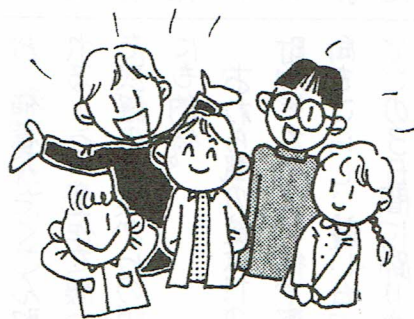
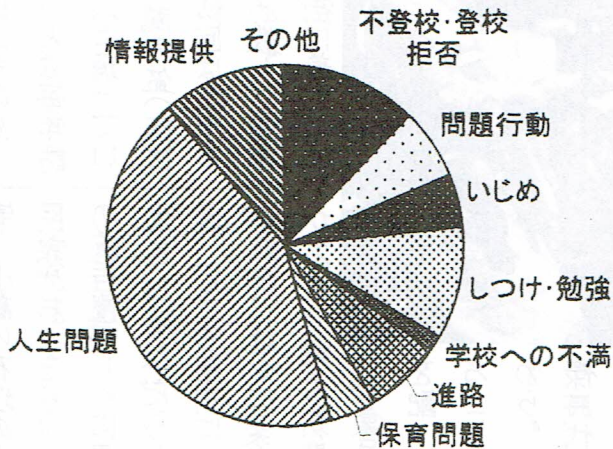


相談担当日

月 前田 石井
 火 難波 衣笠 田中
 水 高田 石井
 木 難波 奥田 加戸
 金 難波 石井

相談時間

9:30～16:30
 (12:00～13:00は休憩)



受け継がれる伝統に感動

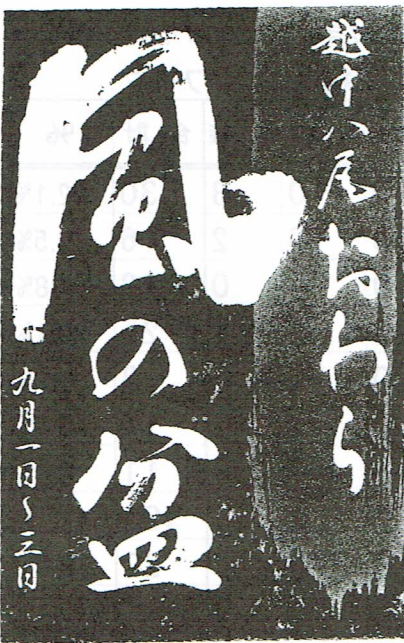
相談ネットワーク 衣笠祥子

一度は行きたいと思
っていた。おわら風の
盆に、友人Sさんと
出かけた。のろろ台
風2号が近づいている
9月1・2日、少しで
も雨が落ちると楽器が
傷むので踊りは中止に

なると聞く八尾(やつ
お)へ向け出発。知人
Kさんのお知り合いケ
ルー。新潟からの「檀
(まゆみ)おわらの旅」
一行16人と富山で合
流。わたしの「おわら
風の盆」についての知

識は「郷愁誘う胡弓の
音に、ゆっくりとした
所作で夜通し街を踊
る」ぐらいのものだ。
グループの人は毎年訪
れ、20回以上通ってい
る「おわら風の盆(狂)」
もいる。初回は私たち
2人も含め数人。昼過
ぎ八尾の街に着く。ま

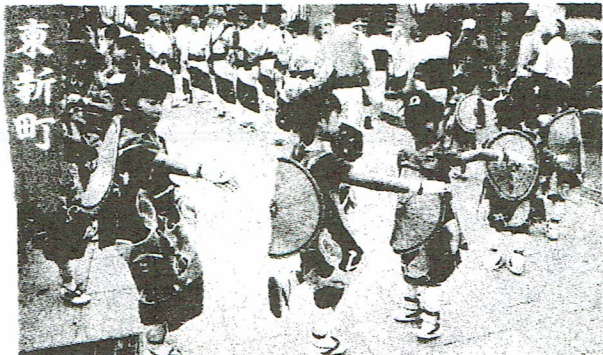
さしく「風の盆」一色
だ。とても暑い日にな
ったが、町を少し散
策。小高い石垣の上に
民家があつたり、「日本
の道百選通り」に選ば
れているならかな
坂、どこも両側に灯籠
が並び、辻々に案内所
があり、地元新聞は



「特集号外」
を配ってい
る。この「お
わら」は元
禄時代に、
若者が三味

線や太鼓を鳴らし民謡
や浄瑠璃をうたいなが
ら三日三晩町内を練り
回ったのが初めとか。
この風景が町民の楽し
みとなり豊作と二百十
日の風封じを願う「風
の盆」に発展したと言
われている。「おわら」
の語源は様々でいまだ
に正解はないそうだが、
稲藁がたぐさん取
れるように豊作を願っ
た民謡の言葉からの説
にも納得。
おわら風の盆は11の
町がそれぞれ特徴や趣
向をこらし、競い合っ
てこの3日間に踊りや
演奏の成果を惜しみな
く発表する場でもあ

る。少女が浴衣を着て、はんなり化粧をして踊るのはとても可愛い。学期はじめのせいだけでなく、この3日間は踊り参加のために早く下校するようだ。そういえば昔、田舎の部落のお祭りの日は、その地区の児童が順番に早退が認められていたことを懐かしく思い出す。以前は練習場にも使われていた宿舎を持ち寄りの夕食を食べ、みんなで町に出て胡弓



少女だけが、愛らしい早乙女姿の衣装をまわって踊ります

音に誘われて歩くが、どうも期待ほど踊りの集団に会わない。道端に休んでいると古老が話しかけてきて「一旦寝て、12時ごろから出かけなさい」と教えてくれる。この街の人はこの祭りに関しては

途方もなく親切だ。9時半から私たちが泊まっている街へ一番美しい踊り」と自負する鏡町が地元演舞場で踊る。鏡町は昔、花街として栄えてきたとがで芸事には誇りをもっている街らしい。「これを見なければ来たことにならない」とベテランマニアに携帯で呼ばれ、確保した見物場所へ急ぐ。これはよかつた！踊り手は笠を被り、女性のしなやかな手の所作と男性の優雅な中にピリツとする動きがなんともいえぬ美しい。笠を被つての踊り手は、男性は高校

生も含む青年、女性は25歳ぐらいまでの若者に限られる。年をくつた女性も踊るが、笠無しらしい。感動したのは踊り手が、男女とも高校生や青年であることだ。踊れるようになるには相当な練習が求められ、しかも演奏者も歌い手も踊り手もみんな一堂に会していなければできない。公会堂や施設の練習場で毎夜、若者達が熟練の大人たちと交歓する風習が残っている街であること、そのことが感激だ。今は失われている日本の伝統をも含めての「お

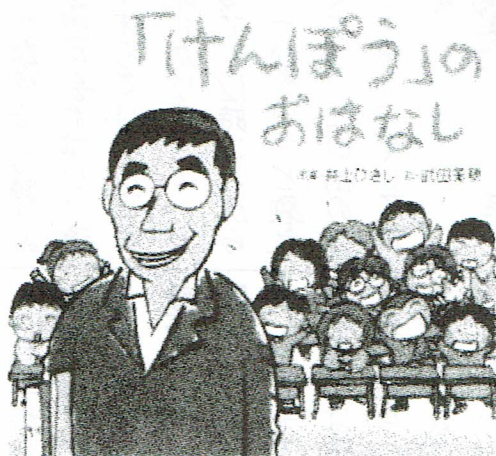
わら」の踊りである。今日までの練習の過程を思い、若者達の手の美しい所作を観ると胸がキーンとなる。また一寝入り。12時起きされて街へ。街流しは先を男女の踊り手、後を三味線が10人程、胡弓が1人、歌い手が2〜3人で組まれている。踊り手が多いほど集団は長い。この街流しや輪おどりなどを夜明けの3時すぎまで楽しむ。帰路は富山で元祖関野屋の「鱒寿司」をお土産に、台風12号の進路を心配しながら帰固した。

(きぬがさよし)

みんなに知らせたい！
本！！
 ⑨

岡山市立高島小学校司書
後藤 敏 恵

「すごい本だなあ」とつい読み込んでしまう本があります。でも、多くの人の目にとまらぬうちに出版社が出版しなくなることもあります。「貴重な文化が知られてないよー なんてー」と思います。だって、私は学校司書だから。「こんな勇気と希望をわきたたせてくれる本は、みんなに知らせなくちゃ!!」と思います。そんな本を紹介させてもらうことにしています。



2010年4月9日に井上ひさしさんは亡くなられました。その一年後にこの絵本が生まれています。井上さんが

小学生に向かって実際にお話された言葉をもとにして、つくられた絵本です。

井上さんは、子どもたちに質問します。「自分のどんなところが日本人らしい

と思いますか?」。井上さんは自分の日本びいきを語ります。日本人のやさしい心が好き、相撲や歌舞伎という文化も好き。やっぱり住むなら日本以外考えられないと言います。

講談社 二〇一一年版 一三六五円(税込み)

生まれてくまの、立ち返らせられる井上ひさしさんの言葉
『『けんぽう』のおはなし』
 井上ひさし 原案
 武田 美徳 絵

愛すべき日本は、井上さんが十歳になるまで戦争をしていました。当時、子どもは二十歳までは生きられない。戦争をしている国のために「みんながぎせいになることが正しい」と学校で教わっていたのです(あらためてこれらの言葉を考えると、なんと恐ろしい、未来のない政策でしょうか)。

1945年8月15日の終戦の後、戦争の恐ろしさを思い知った日本人は二度と戦争を

「しなないぎまわり」「けんぽう」
 (日本国憲法)を決めた...と
 語る井上さん。すると、「そう
 はいっても国をまもる戦争を
 しなきゃいけないこともある
 んじゃない?」という問いが
 出てきます。井上さんは、じ
 つくりと答えをさぐりながら
 語っていきます。

でも、そこにすでにいる
 一人ひとりがあわせにな
 らなかったら、なんのいみ
 もないでしょう。国のしあ
 わせのために、みんながい
 るんじゃないかと、みんなの
 しあわせのために国がある
 はずですよ。

「けんぽう」は、国や政府が
 大きな力を利用してすきかっ

てなことをしないよう歯止め
 をかけて、一人ひとりが尊重
 され自由をまもるためにある
 のだ、と語ります。

一人ひとりが自由に生きよ
 うとすることは、ぶつかりあ
 うこともあります。けんかが
 おきて、国どうしなら戦争に
 もなりかねない。それを防ぐ
 ために、お互いに強い武器を
 つくっておどし合って戦争を
 さけるのか、とこころ話し合
 って戦争を避けるのか。「日本
 は戦争をしないために、いつ
 さいの武器をもたないときめ
 ました。人間どうしであらそ
 つても、そこにはなくしもし
 かのこりません」と語りま
 す。

また問いが生まれます。「じ
 やあ、どうやって国をまもる

岡山市には市立の小・中
 学校・高校に一校一名の学
 校司書が配置されていま
 す。私たち学校司書は、学
 校図書館で、どの子にも「読
 みたくなる本や読みついで
 の?」

井上さんの考えは、...。大
 人もおもわずうなずいてしま
 うアイデアが話されます。そ
 して、言葉は読みます。

世界じゅうのもんだいを
 かいけつするのは、たいへ
 んなことかもしれない。
 でも、どんなもめごとでも
 ことばのかぎりをつくせば
 しずまるとわたしはしんじ
 ています。

井上さんは「けんぽう」が平

ほしい本」を準備し、「知り
 たい」と思うような紹介をし
 て、子どもたちが読書や学
 ぶことが好きになって自分
 の力を発揮できることを願
 って仕事をしています。

和と命を育てるためにあるこ
 とを、せいじっぱい、わかり
 やすく伝えていきます。さら
 に、武田美徳の絵とレイアラ
 トがみごとにマッチして、あ
 とかきは大江健三郎さんとい
 う、せいじたくな、あたたかみ
 のある仕上がりになっていま
 す。子どもたちの未来がひら
 かれていくように、という願
 いがこもっています。

小学生から大人まで、みん
 なが読むことができ、みん
 など話がしたくなる絵本で
 す。

(「ことう」として)

相談ネットワークの総会 創立22周年記念

映画とトークとギター演奏

学力テスト37位と暴力行為全国1位
岡山の教育をなんとかせんといいけん

話題提供
石井信行さん(元小学校教師)
石川真佐代さん(元小学校教師)
K相談員 (元小学校教師)

こちよさをエネルギーにして
明日も輝けるように

11月27日(日)

総会 9:30~

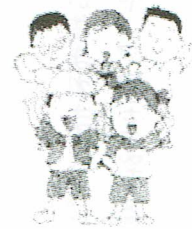
ギター演奏 10:00~ 佐藤匡さん

話題提供・交流会

映画上映 13:30~

入場無料

(資料代200円)



「あかね色の空を見たよ」

岡山市立中央公民館

岡山市中区小橋町 TEL 086-272-7886

ふ

と気がつくところ、そろそろ歳の暮れ、今年も色々あったなあと思える日がある。経済も政治も教育も、そして東日本大震災の後始末も、子どもたちにとって、希望も未来も、しぼんでしまうような話ばかり。

ゆ

ゆっくり、ゆったり、ゆうゆうと生きていけたらいいなあと思える日があるのです。でもそれは待つとしてもやってきませんね。自分たちで作りださないと。

も

もう少しだけ生かしてもらって、自分たちでできることをやりたいもの。そして生きてきてよかった、生まれてきてよかったなあ、と笑いあいたいものです。

み

んなが、そうなることを願います。とりわけ、子どもたちがさうなることを。

じ

んせい、捨てたものではない。人を愛するところと進んでいく勇気とそして。

ちよっぴりのお金があれば、夢は実現できる(チャリ・チャップリン)のです。新しい年に少し早い乾杯!!

